



2020

HYMO CSR Report



CONTENTS

HYMO CSR Report 2020

3 トップメッセージ

4 ハイモについて

- 会社概要
- 事業内容
- 事業所
- 研究開発
- 品質サービス
- 売上高・従業員数

5 ハイモのCSR活動

- CSR推進室
- ISO認証取得および主なCSR活動

6 お客様への責任

- ハイモの技術と製品
 - ディスパージョンポリマー
 - エマルジョンポリマー
 - 水処理用高分子凝集剤
 - 製紙用高分子薬剤
 - 法面緑化用高分子薬剤
 - 泥土改質剤
 - 粉塵低減剤
 - 収束剤
 - 電気泳動ゲル

9 環境への責任

- マテリアルバランス
- 環境関連データ
- 2019年度の目標と実績

13 社会・地域・従業員への責任

- 新型コロナウイルスへの対応
- 労働災害防止への取り組み
- 防災・避難訓練(2019年度)
- 有給休暇の取得状況
- 育児休業制度、育児短時間勤務制度等
- 英会話教室開講
- 救命・救急、交通事故防止
- 省エネ法対応策検討チームの発足
- BCM格付
- 河川観察(パトロールおよび美化活動)
- 環境保全標語入選

■ 編集方針

本レポートの作成にあたっては、「環境省・環境報告ガイドライン」等を参考としました。

※本レポートの作成にあたって、集計方法の見直しなどを行ったため、昨年の報告書と数値が異なる場合があります。

■ 報告対象範囲

対象期間：2019年4月～2020年3月(2020年12月発行)

※一部期間外の内容も含んでいます。

■ お問い合わせ先

ハイモ株式会社 CSR推進室

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目4番1号 TEL: 03-6212-3838 FAX: 03-6212-3848

TOP MESSAGE

HYMO CSR Report 2020



企業としての事業活動を通して ステークホルダーの信頼を高めます

ハイモは、2007年から環境、安全ならびに法令順守に関して取り組んでおりまます。その成果を2008年より「環境安全報告書」として発刊し、版を重ねて現在の「CSRレポート」として社内外の皆様へお届けしてまいりました。

「環境報告ガイドライン2018年度版(環境省)」にあるように近年では企業を取り巻く環境は、持続可能な社会に向けた国際的な潮流により大きな変化を余儀なくされています。

ハイモはこれまで豊かな自然と調和し、安全と法令順守を通じてすべてのステークホルダーの皆様の安心と信頼を高めて、のちの世代に繋げていく活動を目指してまいりました。

これからは、いかに企業が経営戦略として課題に取り組んでいくかといった未来志向的な報告もより求められるものと想料いたします。

本レポートは、2019年度の事業活動の結果を写真・データ等でご報告するものです。ご高覧いただきハイモの活動をご理解頂ければ幸いです。

代表取締役社長 望月 義之

ハイモについて

会社概要

商号 ハイモ株式会社
所在地 東京都千代田区丸の内
 3丁目4番1号
設立 1961年4月28日
資本金 281,968,500円

事業内容

- 水処理用高分子凝集剤の製造販売
- 製紙用薬剤の製造販売
- 土木用薬剤の製造販売
- 生化学分析用ゲルの製造販売

事業所

- 本社（東京）
- 支店（大阪）
- 営業所（札幌、仙台、富士、名古屋、広島、福岡）
- 工場（青森、神奈川、山口、福岡）
- 研究センター（神奈川）
- テクノセンター（神奈川）

研究開発



技術戦略

「水とニュー化学」のテーマで、地球環境に優しい製法と製品を開発してきました。さらにCSR活動を推進するために、法適合と製品の安全に取り組んでいます。強力な知的財産戦略により、お客様に安心して使用していただける独創的技術を提供しています。

製品設計と機能の発掘

高度の解析技術と合成技術により、高分子の構造設計から機能の発掘へと展開し、製造法の確立に繋げます。

製品評価と使用技術の提案

先進的な機能評価技術により製品の機能を突きつめ、お客様へ最適な使用方法を提案し、新しい製品開発へ展開しています。

品質サービス



生産体制

ISO9001とISO14001を取得し、最新の技術システムと環境保全体制の下で製造しています。また4工場による生産体制を構築し、大規模災害からのリスク回避を図っています。

物流体制

タンクローリー、コンテナ輸送等、お客様の受け入れ体制に合わせた輸送形態で製品を納入しています。また、輸送・納入時の無事故を最優先とした物流体制を整えています。

品質管理

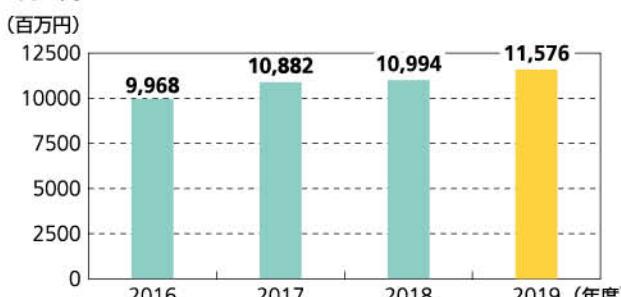
万全の品質管理を行うことで、お客様に満足していただける製品のご提供が可能になります。確かな品質を維持するため、様々な規格や基準を設けています。

情報公開

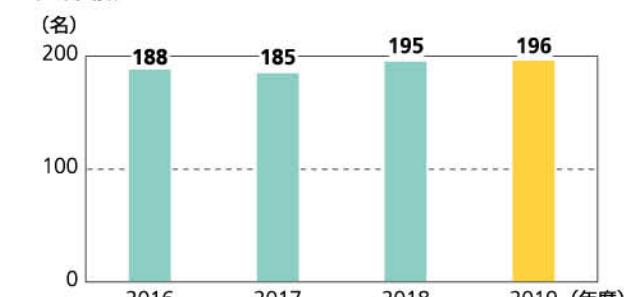
化学製品を扱う者として、社会が求める情報を積極的に開示しています。レスポンシブル・ケア(RC)の理念に基づき、社会との対話を図りながら、社業に反映させています。

売上高・従業員数

売上高



従業員数



ハイモのCSR活動

CSR推進室を設置し、環境・安全および法令遵守に関わるさまざまな活動に取り組んでいます。

社会に必要とされる企業として CSR推進室

当社では、2007年に全社を統括するRC^{*1}の推進部署として「RC推進室」を発足させ、環境や安全衛生、法令の遵守などに関わる活動に取り組んできました。近年企業の社会的責任(CSR^{*2})の重要性が高まるなか、2011年からRC推進室を「CSR推進室」に改称して、社会の一員としての役割をより一層担うことができる会社を目指し、

機能強化を図りました。これにより社内における環境や健康安全に関する管理だけでなく、会社活動が社会に与える影響に対しても責任を持って推進していく体制となりました。また、経営層で構成される「CSR委員会」や事業所毎の安全衛生委員会とも情報共有・相互連携を図って、活動のレベルアップに取組んでいます。

品質・環境の継続的改善と法規制・社会への対応強化を目指します ISO認証取得および主なCSR活動

コンプライアンスへの取り組み

CSR推進室では、2011年より、社員の意識・知識の向上を目的として、CSR研修会や社内報を通じた啓発活動を行っています。また、2013年に、コンプライアンスに関する社会的要請の高まりを受けて、10箇条の行動規範である「CSR重点項目」を定め、これに基づいたコンプライアンス教育を継続的に実施してきました。2017年からは、経営層で構成される「CSR委員会」主導でのコンプライアンス体制の再構築を開始し、組織体制の整備、社内教育の充実化などを取進めています。2019年は、新規の社内規定「コンプライアンス規定」や、30箇条からなる具体的行動の規範「行動基準」といった、コンプライアンス活動の基盤となる文書を制定しました。そのほか、法令順守体制の一環として、2009年より法令改正の監視活動を継続しています。2019年には、この活動における入手情報や運用体制について大幅な見直し・強化を行い、より確実な法令順守が可能な体制を確立しました。

国内外法令への対応

全てのものは化学物質で構成されおり、我々の生活を便利にしている一方で、労働環境・環境・消費活動を経由して様々な経路で暴露するリスクがあります。現在、日本では化学物質の全ライフサイクル(製造から廃棄まで)にわたり暴露経路やライフサイクルの段階に応じてきめ細かい法規制がしかれています。特に商品の提供においては、グローバル化を背景に、米国TSCA、欧州REACH規制、中国新規化学物質環境管理弁法、

品質・環境への取り組み [ISO9001・ISO14001]

品質方針に基づき、常に品質改善と顧客満足の向上に取組んでいます。1998年に神奈川工場で品質ISO9001の認証を取得し、その後、青森工場、山口工場、開発部門、営業部門にも認証範囲を順次拡大しました。環境ISO14001については、2002年に神奈川工場と山口工場が認証取得し、2004年に青森工場にも取得拡大しました。環境方針を基に生産部門全体で環境管理プログラム計画書を策定し、環境負荷・環境リスクの低減を行っています。2015年にはISO規格が全面改訂され、実効性をより強化した内容に刷新されました。当社でも、品質・環境ISOとともに新規格に移行し、規格改訂のメリットを活かせる体制づくりを行っています。



危険化学品安全管理条例など様々な法律により、化学物質が管理されています。

当社は、化学品メーカーとして国内外の登録化学物質リストおよび法令の改正に適切な対応をとり、お客様により安心してご使用頂くため、法令情報システムや社外データベースを導入し、日本を含め関係する各国の化学品規制の最新の状況や動向の情報収集・解析を常時行っています。

お客様への責任

ハイモの技術と製品

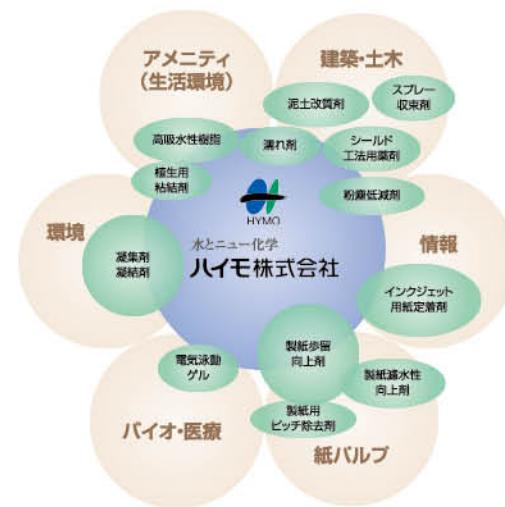
水溶性高分子は環境にやさしい素材として世界的に注目を集めています。ハイモはこれまで「環境」「エネルギー」「健康」をキーワードに高度な高分子設計技術を用い、環境負荷の低減、生産性の向上に挑戦してきました。



多くの分野で利用される ハイモの製品群

当社はこれまで多様な原料を用い、優れた機能を有する環境にやさしい水溶性高分子を数多く開発し、現在も社会の広い分野で利用されています。産業界においては廃水処理、製紙プロセス、土木建設プロセスを中心とする凝集剤(ハイモロック)として、また医療分野においては電気泳動ゲルとして、更に、私たちに身近なところにおいてはインクジェット用紙の品質向上あるいは上下水道の汚泥脱水用凝集剤として、お客様の環境負荷低減、省資源化、リサイクルの推進等に役立っています。

ここでは、環境に配慮した当社製品群をいくつかご紹介します。



環境に優しい高濃度水溶性ポリマー ディスページョンポリマー

世界各国で使用されている特殊製法によるディスページョンポリマーは、当社で開発、製法が確立されました。このノンオイル型の環境にやさしいポリマーは今後も数多くの新しい分野でその利用が期待されています。



水に素早く分散し、溶解する。



高機能型水溶性ポリマー エマルジョンポリマー

高分子凝集剤の形態の主流である粉末製品に対し、特殊製法を取り入れ構造をコントロールした高機能型エマルジョンポリマーにより、使用量の低減、効果の向上を可能にし、環境負荷低減に貢献しています。



多くの分野で活躍 水溶性高分子の機能を活かす

これまで当社の開発した水溶性高分子は産業廃水処理における高分子凝集剤として発展してきました。当社は水溶性高分子が水中に懸濁する物質を集める凝集機能以外にも多くの機能を持つことに注目し、近年様々な分野への展開を積極的に進め、省資源化、生産効率の向上、安全性の向上に寄与する製品を提供しています。

■ 水溶性高分子とその応用

機能	用途
集める・沈める・浮かす	凝結剤・凝集剤
質を変える・接着させる	泥土改質剤・土壤改質剤
固める	固化剤
増粘させる・分散(減粘)させる	増粘剤・流動化剤・分散剤
定着させる	インクジェット定着剤
水にぬれ易くする	濡れ剤・親水化剤
収束させる・吹き付ける	収束剤・粉塵低減剤
吸水させる	吸水剤
展開させる・分離させる	電気泳動ゲル・イオン交換樹脂



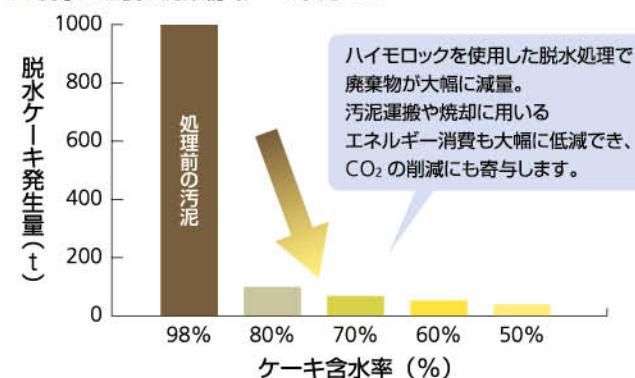
きれいな水をつくり廃棄物を削減する 水処理用高分子凝集剤

廃水処理用の高分子凝集剤(ハイモロック)は一般産業廃水、上下水道処理の処理薬剤として長い間使用されてきました。使用した水を効率よく再利用することは省資源、省エネルギーの観点から重要なテーマであり、最終処分廃棄物の減少はエネルギー消費、CO₂削減に大きく寄与します。ハイモはあらゆる廃水に迅速に的確に対応するため、全国各地の廃水、汚泥を採取、最適な薬剤と使用方法を提案しています。

下水処理場で発生する汚泥の凝集脱水処理工程



脱水処理後の廃棄物（ケーキ）発生量



高品質の紙づくりとリサイクルに貢献 製紙用高分子薬剤

紙は人類の歴史と共に進化しており、現代社会には無くてはならない存在です。製紙産業は、「森林」「紙」「エネルギー」を上手く循環させて、資源を有効に活用している産業です。日本国内の製紙会社における古紙の利用率は、2017年には64.1%に達しており、高水準で推移しています。現在、新聞用紙原料では75%程度、段ボール原料では殆どが古紙です。その古紙に混在する異物やインク等を取り除き、纖維だけを取り出し、古紙パルプとして再生する高度な技術が求められています。更に、製紙会社では、用水原単位の削減、環境規制への確実

な対応の推進、省資源、省エネルギーへの取り組みが求められ、地球環境保護の為の課題は多岐にわたっています。当社では、このような課題の中から、具体的に古紙原料使用による短纖維パルプのワイヤー上での歩留率向上及び乾燥性向上を目的に歩留向上剤や濾水性向上剤を提供し、省資源や省エネルギーに寄与しています。また、古紙原料から持ち込まれる糊やテープの粘着成分、ピッチ成分を抑制する水溶性高分子薬剤を開発し、安定した抄造環境と高品質の紙質維持に貢献しています。



地域植生の回復 法面緑化用高分子薬剤

ダムや道路工事、開墾建設工事によって、法面^{*1}の地面や岩は風化され、降雨によって多くの土砂が流出、周辺の環境は大きく破壊されます。このような環境下では早く植物が地表を覆い、根を張り地盤を固める必要があります。しかし、ここに植物の種を蒔くだけでは十分とはいせず、種は素早くしっかりと斜面に固定される必要があります。当社では工事で発生した廃棄物の木材や植物の根をチップ化

し、現地の土を再利用したうえで、水溶性高分子を添加し、団粒化^{*2}させます。法面に吹付けた後は土の湿度・水分を保ち、斜面に強く長期にわたって接着効果を維持することによって、植物種子に良好な緑化基盤環境を作ることが可能となります。このように現地の土に含まれる種子を利用することで、他の地域の植物持ち込みを防ぎながら廃棄物の有効利用が可能となり、地域植生回復に役立っています。

用語集

^{*1}法面：切土や盛土によりつくられる人工斜面のこと
^{*2}団粒化：土壤の粒子が小さな塊を形成している構造

お客様への責任

ハイモの技術と製品



作業の効率化に貢献

泥土改質剤

土木工事や災害現場に発生した多量の泥土は非常に高い含水率と流動性を示し、除去作業やその後の運搬において取り扱いが困難となります。更に処分の際、泥土流失などによる周辺への環境汚染を引き起こす危険性があります。

このような流動性の高い泥土に泥土改質剤を加え、かき混ぜることで、泥土は瞬時に団粒化現象を示し、取り扱い、運搬移動が容易となり環境汚染の発生を未然に防止できます。



安全な作業環境づくりに貢献

粉塵低減剤

トンネル工事の代表的工法にNATM工法があります。日本においても大型トンネル掘削の標準工法として施行され、あわせてコンクリート吹付工法も進歩をとげてきました。しかし、吹付時に発生する大量の粉塵について作業者の健康、安

全作業に課題を残してきました。

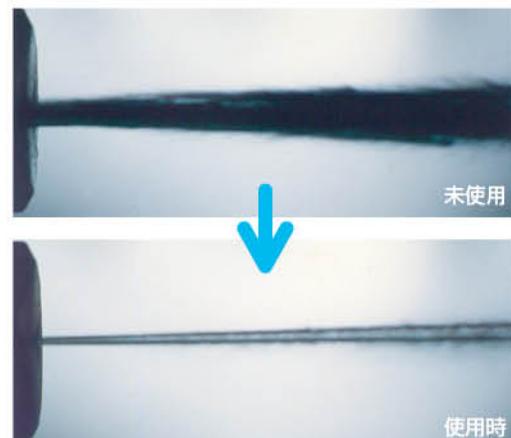
ハイモは長年培った水溶性高分子技術をもとに高性能の吹付コンクリート用の粉塵低減剤を開発、快適な作業環境の確保と経済的な工事の推進に活用されています。



アスベストの除去作業にも活躍

収束剤

水溶性高分子を希釈した水溶液は僅かながら粘性を示します。この性質を利用し、この粘性溶液を高圧条件下で細いノズルから噴出させ合成ゴム、各種樹脂などを高精度に切断、精密加工することができます。この機能は鉄筋コンクリート構造物のはつり工事にも利用されウォータージェット工法と呼ばれています。また、近年アスベスト飛散による環境汚染が社会問題となっておりますが、このアスベストを安全に、早く、確実に除去する方法としてイーコン工法が開発され、この除去作業に当社の水溶性高分子が利用されています。



医療や生化学分野で活用される

電気泳動ゲル

生化学の発展のなかで、正確なタンパク質、DNAの分離、解析は重要な研究テーマであり、電気泳動^{*}ゲルは今後の医薬品の開発、病理の解析、或いは生物体の遺伝子情報、分類の研究等に欠かせない分析ツールとなっています。

■ 特徴

- 長期間の保存が可能なため、在庫管理が容易で、有効期限切れによる廃棄物の発生を抑制します。
- 大量生産による製造・流通コストの削減を実現しています。



電気泳動ゲルによるタンパク質の泳動像

環境への責任

環境等に関するさまざまな改善活動を継続しています。



マテリアルバランス

生産部門



全社的な傾向として、エネルギーのほとんどは生産活動に投入されています。

生産部門におけるエネルギー消費量の変化は、概ね生産量の増減に同調しており、生産活動に伴い発生する廃棄物も他部門と比較して多くなっています。生産部門では環境マネジメントシステムISO14001の認証を取得し、このシステムの運用によってインプット・アウトプットの削減に取り組んでいます。

一方、営業部門では販売活動に伴う自動車移動で消費されるガソリン使用の比率が高くなっています。開発部門では、試作開発／各種分析に必要な熱源利用や、精密測定機器のメンテナンス／維持のため、床面積当りの電気使用量が多い傾向があります。

また、生産・営業・開発・管理の全部門において、廃棄物の減量化とリサイクルを推進しています。

環境への責任

環境関連データ

生産部門

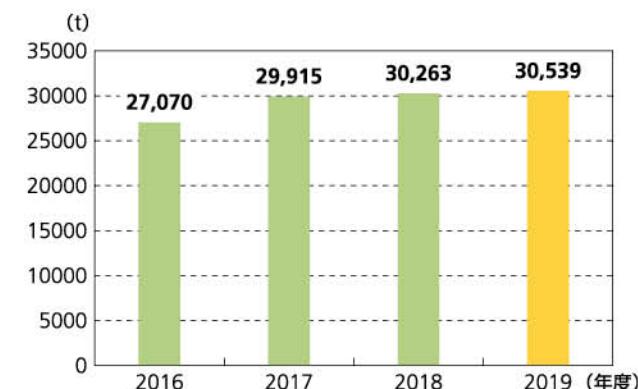
生産量

市場からの要請を受けて、性能向上やコストダウンを図るために有効成分濃度がより高い「高濃度液状製品」へのシフトを進めています。

そのため、製品重量ベースでの生産量増加以上に、有効成分としての生産量は増加している傾向となっています。

※2019年度分より集計方法を見直した結果、過去の数値についても修正しております。

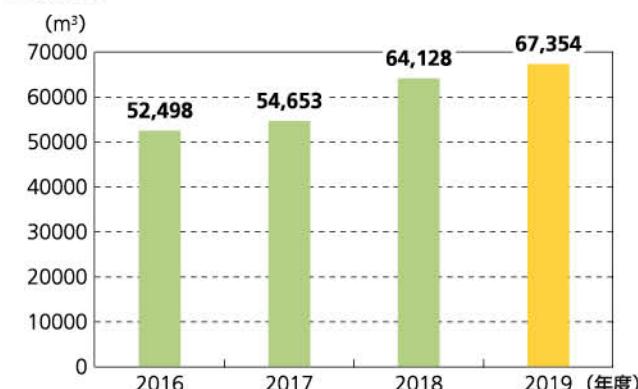
生産量



水資源投入量

高濃度液状製品では、製造設備や製品容器を洗浄するために多くの水を使用します。そのような製品の生産量が増えていることで、水資源の投入量は増加傾向にあります。

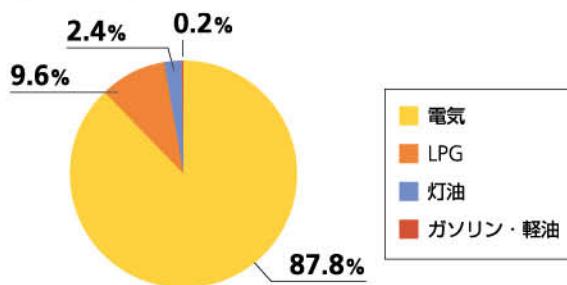
水資源



エネルギー投入量

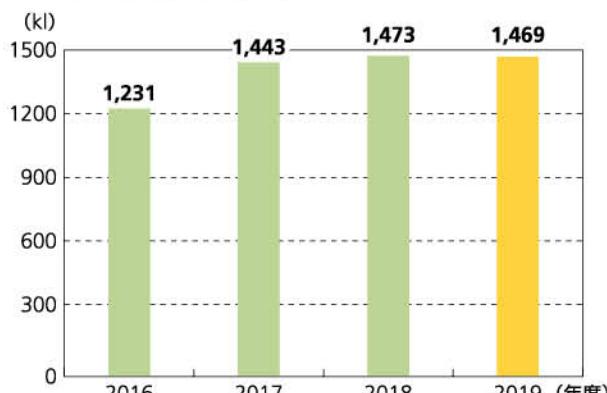
生産量の増加や製造設備の増設とともに、エネルギー投入量も増加傾向にあります。併行してエネルギー使用の合理化をすすめることで、トータルとしての変動は抑えている状況です。

エネルギー内訳



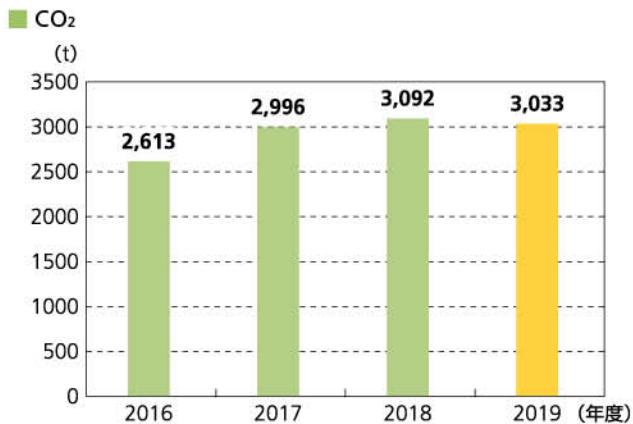
※2019年度分より集計方法を見直した結果、過去の数値についても修正しております。

エネルギー投入量推移 (原油換算)



CO₂排出量

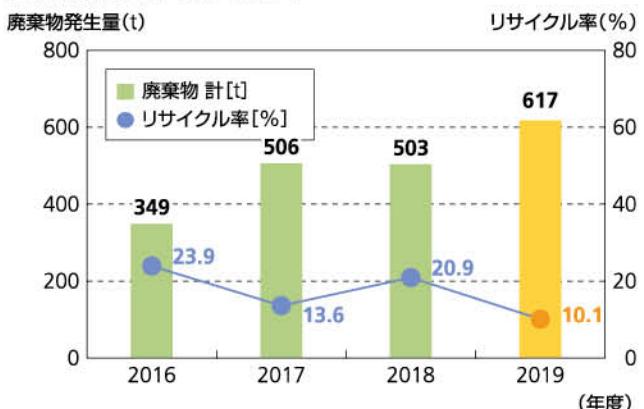
エネルギー投入量に連動して、CO₂排出量も漸増傾向となっています。生産設備の見直しや製造工程の改善によって効率的にエネルギーを使用することで、CO₂の排出量を抑制しています。



廃棄物発生量・リサイクル率

生産量増加にともない廃棄物発生量も増える傾向にありますが、継続的な改善活動によってリサイクル率は増加基調となっています。しかし、直近の3年間において、工場建屋や大型生産設備の更新／新設工事に伴う廃材発生など、一時的に廃棄物量が大きく増加することが相次いたため、そういった傾向がデータから明確には見てとれない部分もあります。

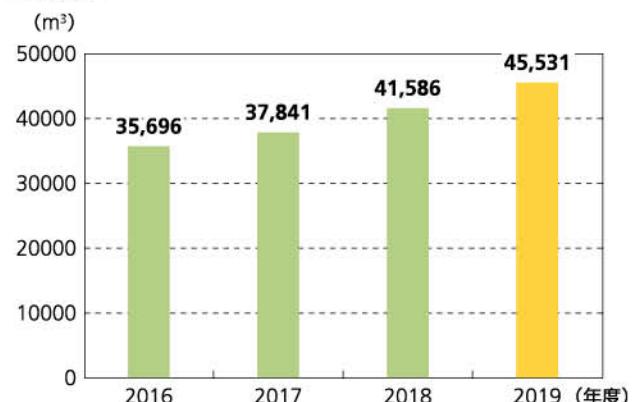
廃棄物発生量・リサイクル率



排水量

水資源の投入量の推移に連動して、排水量も増加が続いています。

排水量



環境への責任

ハイモについて

ハイモのCSR活動

お客様への責任

環境への責任

社会・地域・従業員への責任



2019年度の目標と実績

環境安全活動状況

環境負荷低減に関するテーマでは、大規模な不良在庫の整理など一時的な要因から廃棄物発生量が大きく増加しました。また、生産量増加の影響によりCOD負荷量についても大幅な目標未達となりました。この結果を受けて、排水処理の効率向上と安定化を目指し、引き続き改善活動に注力しています。その他のテーマでは概ね目標を達成していますが、全社において更なるレベルアップを目指した取組みを続けています。

推進項目	テーマ	2019年度目標	2019年度実績	関連ページ
環境負荷低減	CO ₂ 削減	製造原単位あたり CO ₂ 排出量 2018年度比 1%以上削減	2018年度比 4.0%減少	11
		製造原単位あたり エネルギー使用量(電気・ガス・燃油) 2018年度比 1%以上削減	2018年度比 1.0%減少	10
		製造原単位あたり 廃棄物発生量(リサイクル分を除いた量) 2018年度比 3%以上削減	2018年度比 38.2%増加	11
	水生環境への負荷 低減	製造原単位あたり 排水のSS ^{*1} 負荷量 2018年度実績値未満	2018年度比 17.5%減少	—
		製造原単位あたり 排水のCOD ^{*2} 負荷量 2018年度実績値未満	2018年度比 15.0%増加	—
	安全衛生	人身休業災害なし 人身無休災害なし	人身休業災害:0件 人身無休災害:5件	13
		安全教育の実施	従業員、委託業者への安全教育を実施	14
		事業所内の安全パトロールの実施	定期的な安全パトロールを実施 (1回/月など)	—
		5S ^{*3} 推進活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ● 製造現場の5S状態のチェック・指導を実施(1回/週など) ● 毎日の朝礼にて5S啓発を実施 	—
危機管理	防災体制の整備	防災訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> ● 大地震・火災・津波などを想定した防災訓練を実施 ● 災害時の安否報告訓練を実施 	13
社会との共存	社会活動への参加	地域の社会・環境活動への参加	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の環境活動に参加 ● 環境保全標語募集に応募 	15
	環境情報の発信	HYMO CSR Reportの発行	発行を実施	—

用語集

^{*1}SS : Suspended Solidの略。浮遊物質量。水中に浮遊している物質の量のこと。

^{*2}COD : Chmical Oxygen Demand (化学的酸素要求量) の略。有機汚濁物質による水質の汚れ度合いを示す数値のひとつ。

^{*3}5S : 整理・整頓・清掃・清潔・躰の5項目。

社会・地域・従業員への責任

化学メーカーにおける「安全」は、社員にとっても、また地域の皆様にとっても、最優先で取り組むべき課題です。



事業継続への取り組み

新型コロナウイルスへの対応

当社は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、各種対策を講じてきました。従業員の感染防止策として、時差出勤・在宅勤務制度を導入、あわせて、各拠点へのアルコール消毒剤・検温用体温計の配付、従業員へのマスク配付、等を実施いたしました。

今後も更なる感染拡大が懸念されますが、従業員の健康を守るため、引き続き、必要な対策を講じてまいります。



在宅勤務により出社人数の減った本社の様子



安全な職場づくりを目指して

労働災害防止への取り組み

安全操業は生産活動の基本です。当社では全国の生産拠点で、労働災害防止の取り組みを進めています。事故・トラブル事例の情報共有や水平展開、安全パトロール等による職場環境の改善、災害防止のための定

期的な訓練等を通して、日々安全操業のレベルアップを図っています。更に2015年度から、BCP*に基づく取り組みも合わせて行い、安全操業と供給責任の達成の両立を進めています。

災害件数

年度	休業災害	無休災害
2016	0	1
2017	0	2
2018	0	2
2019	0	5



各拠点で定期的に実施

防災・避難訓練（2019年度）

9月1日の防災の日に合わせて各拠点で緊急事態発生時の避難経路および避難場所の確認を行いました。生産拠点では各々がテーマを決めて防災避難訓練を実施しています。

青森工場では道東沖で大地震が発生し大津波警報が発令されたとの想定で20分以内に避難するための訓練を行いました。

また自治体が発行しているハザードマップを利用した避難場所の確認と薬品が漏洩した場合の対処方法を確認しました。

神奈川工場では神奈川県中部で震度6強の地震が発生したとの想定で被害を最小限に抑えるための避難行動と生産設備の状況確認を行い消火器を使った初期消火方法の訓練を行いました。

また最新型地震体験車による震災体験を全員参加で行いました。この体験車は東日本大震災や阪神淡路大震災など過去に起こっ

た大地震に加えて、今後想定される様々な大地震の揺れ方を再現できることから現実に起こり得る震災がどのようなものか具体的なイメージを持つことができました。

山口工場では大地震により事務所給湯器より火災が発生したとの想定で避難経路の確保、水消火器による消火訓練、消火栓設備からの放水による消火訓練を行いました。また各工場ごとに指定避難場所までの避難経路に不具合がないかを実際に歩行し万が一の事態に備えています。

営業拠点においては、BCP（事業継続計画）の一環として2019年9月に全社一斉の安否確認訓練を実施しました。

地震などの災害が発生した際に、社員や家族の安否や事業所の被災状況を把握するために全従業員を対象にNTTドコモのBiz安否確認アプリを活用した安否確認の操作を練習しています。



①



②



③

① 青森工場 ② 神奈川工場 ③ 山口工場

用語集

*BCP : Business Continuity Plan (事業継続計画) の略

社会・地域・従業員への責任

責任ある企業として、地域社会への貢献や従業員満足度の増進に取り組んでいます。



ワーク・ライフ・バランスへの取り組み

有給休暇の取得状況

社員有給休暇取得促進の観点から、入社初年度の取得可能日数増(13日間)や有給休暇の計画的付与日数増(1日増、計2日間)に取り組んでまいりました。その結果、2019年度の有給休暇の平均取得日数は12.8日、平均取得率は70.3%となり、2010年度と比較して、平均取得日数は

2.3日増、平均取得率は12.3%増、となりました。これからも、社員にとって有給休暇が取得しやすい環境作りに努めていきます。

■ 有給休暇の年間取得日数

年度	取得状況
2016	12.0日
2017	11.7日
2018	12.8日
2019	12.8日



2019年度は延べ10名が取得

育児休業制度、育児短時間勤務制度等

2019年度は、2名の女性社員と、1名の男性社員が、育児休業を利用しました。また、5名の女性社員と2名の男性社員が、育児のための勤務時間短縮、及び、フレックス勤務制度を利用して就業し、育児と仕事の両立を図っております。

2019年度に初めて男性社員が育児休業を取得し、加えて、男性社員のフレックス勤務制度の利用実績も増えております。男性社員や複数回利用者にとっても、利用しやすい制度となるよう、これからも制度の更なる見直しを図っていきます。



従業員のキャリア開発

英会話教室開講

2015年5月より、本社にて、外部講師による英会話教室を開講致しました(週1回)。社員の自己啓発支援を目的とし、福利厚生の一環として始めたことから、社員の自己負担は教材費のみとしています。2019年度は本社・湘南研究センターにて開講、多くの社員が受講しています。これからも社員のスキルアップに資する施策を展開していきます。



従業員の意識向上

救命・救急、交通事故防止

湘南研究センターでは、職場の安全と社員の健康の維持のため、安全衛生委員会を設置し毎月1回開催しています。同委員会は、安全衛生推進者を中心としたグループリーダーと推薦された従業員から構成され、大きな問題や懸念事項問題に対しセンター全体で解決に取り組んでいます。日常の予防活動に重きをおいた労働安全衛生への取り組みとして、月一回の安全教育やヒヤリハットシートや改善提案を活用しています。

また、同委員会では避難訓練や外部講習(救命・救急、交通事故防止)を企画し、安全に対する従業員の意識向上に努めています。

2019年7月12日には、寒川町消防本部さまのご協力を頂き、地震等災害時の大けがを想定した消防救急講習を開催しました。40名の社員が参加し、外傷処置、三角巾使用法の実技を学びました。当センターでは、毎年、課題を設定した防災訓練

を実施しております。今回の講習を有効に活用し、防災・災害時への対応に役立てています。

2019年9月27日には、地震を想定した避難訓練を行いました。地震発生

から、避難、けが人の搬送、救急通報に至るまでを全員参加で実施しました。訓練後の反省会では、課題の抽出をして災害時の対応力向上を図っています。

2019年11月13日には、神奈川県茅ヶ崎警察署さまのご協力を頂き、交通事故防止について学びました。当センターの多数が自家用車並びに自転車で通勤しており、業務上で社用車を運転する機会もあります。この現状を踏まえ従業員の交通安全についての意識向上を図り、交通事故防止に努めています。



CO₂の削減に向けて

省エネ法対応策検討チームの発足

当社は生産数量増加に伴い、2019年度にエネルギー使用量（原油換算）が1,500kLを超える、省エネ法（エネルギー使用の合理化等に関する法律）に規定される「特定事業者」に指定されることになりました。「特定事業者」は、「前年度エネルギー使用量」の届出、「エネルギー管理統括者・管理企画推進者等」の選出と届出、「中長期的な省エネ取組計画」の作成と提出、

「定期報告書：エネルギー使用状況」の作成と提出等が義務付けられます。

省エネ法への対応策を検討するため、2020年1月にプロジェクトチームを発足しました。これまでに省エネ法の対応に関わる実施要領の調査および必要な届出書類の作成・提出を行い、本格的な活動に向けた体制作りを進めています。

事業継続への取り組み

BCM格付

当社では2015年に事業継続計画関連規程を制定し、地震等の有事に際し役員・従業員やその家族、来客者等の安全確保を最優先し、継続的な製品・サービスの供給責任の履行ならびに経営資源の保全を実現するための取り組みを実施しております。

2018年には日本政策投資銀行の防災及び

事業継続への取り組みを評価するシステムである「DBJ BCM*格付」にて「防災及び事業継続への取り組みが十分に行われている」という格付を取得しました。今回の評価のフィードバックを踏まえながらこれからも継続して活動に取り組んでいきます。



環境保全活動

茅ヶ崎地区相模川をきれいにする協議会

神奈川工場は「茅ヶ崎地区相模川をきれいにする協議会」の会員として様々な活動を行っています。

河川視察（パトロールおよび美化活動）

茅ヶ崎市内は一級河川相模川水系の小出川、その支流の千ノ川と駒寄川等が流れています。

河川視察は毎年実施し、会員自ら水質調査と河川敷の清掃を行っています。河川視察では、河川の7項目の水質調査（水量・色・臭気・透視度・pH・水温・DO）を行いましたが、ここ数年はほぼ良好な水質で推移しています。10月には河岸の清掃を実施し、河川美化を中心に会員への河川の現状報告を行い、啓発活動に努めました。



環境保全標語入選

「茅ヶ崎地区相模川をきれいにする協議会」は、複数の市内事業所からなる団体で、環境保全を推進し、公害防止を図っています。その一環として、毎年会員企業から環境保全標語の募集を実施しています。

2019年度も多くの応募の中から神奈川工場の作品1点が入選を果たしました。

入選作品

相模川 煌く水面に野鳥舞う 未来へつなごう 清き河



用語集

*BCM : 「Business Continuity Management」の略



〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目4番1号
TEL: 03-6212-3838 FAX: 03-6212-3833

社名コンセプト

社名「ハイモ(HYMO)」は、これからの当社の企業姿勢と、事業領域とを示しています。
企業姿勢とは、「高く優れた(High)技術によって、より多く(More)お客様の信頼に応えていくために行動、努力すること」です。
事業領域とは、「Hydro Modern Chemistry(水とニュー化学)」という新しい事業領域です。